

自己評価結果等届出書

令和 8 年 2 月 27 日

鹿児島市長 殿

1 事業者（所）情報

事業者の名称 (法人名)	社会福祉法人 慶生会				
事業所の名称 (施設名)	児童発達支援センター みらくれ				
事業所番号	4650002605				
事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/>	児童発達支援	<input type="checkbox"/>	放課後等デイサービス	<input type="checkbox"/> 保育所等訪問支援
事業所の所在地	鹿児島市中山2丁目13番15号				

2 公表状況

公表日	令和 8 年 2 月 27 日	
公表方法	1. 方法の区分 (プルダウンから選択)	ホームページ ↓ 2にURLを記載
	2. 内容	https://www.keiseikai-kagoshima.jp/
	※公表をホームページ以外の方法で行っている場合には、公表している媒体の写しや事業所内の掲示箇所が確認できる写真等も添付すること。	

3 自己評価事務担当者情報

担当者名	渡邊 奈津美
連絡先 (TEL)	099-210-1003

※公表している自己評価表を添付すること。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらくれ		
○保護者評価実施期間	令和8年11月17日		～ 令和8年12月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	令和8年2月2日		～ 令和8年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○保護者支援・関係機関連携の充実 ・保護者の困り感や不安に丁寧に耳を傾け、相談支援専門員とも連携しながら面談の時間を確保し、一人ひとりのご家庭としっかり向き合う体制を整えている。園との併用利用のお子様についても、幼稚園・保育園と情報共有を行い、支援の方向性を統一できるよう努めている。 ・必要に応じて関係機関との連絡や調整を行い、家庭・園・事業所が同じ目標に向かって支援できるよう連携を深めている。	・保護者の困り感や不安をそのままにせず、日々の連絡帳や送迎時のやり取りの中で丁寧に聞き取りを行っている。必要に応じて個別面談の時間を設け、ゆっくり話せる環境づくりを意識している。 ・園との併用利用児については、定期的な情報共有や電話連絡を行い、支援の方向性がずれないように確認している。 ・相談支援専門員とも連携し、支援計画や家庭状況を共有しながら、家庭・園・事業所が同じ目標を持てるよう調整を行っている。 ・一人ひとりの背景や家庭環境を理解した上で支援を組み立てることを意識している。	・定期的な個別面談の機会を計画的に設定し、保護者が安心して相談できる時間をより確保していく。 ・園や相談支援専門員との情報共有の機会を増やし、支援の統一や役割分担をより明確にしていく。 ・オンライン面談やアンケートの活用など、保護者が参加しやすい方法を取り入れていく。 ・家庭支援に関する研修を受講し、職員の対応力向上を図っていく。
2	○地域とつながる行事活動の充実 ・地域の方々や法人内施設とも連携しながら、季節ごとの行事を企画・実施している。夏祭りや収穫体験、地域イベントへの参加などを通して、子どもたちが地域の中で多様な人と関わる機会を大切にしている。 ・地域を巻き込んだ活動を行うことで、子どもたちの社会性や経験の幅を広げるとともに、事業所が地域に開かれた存在となるよう取り組んでいる。	・年間計画の中に季節行事を位置づけ、子どもたちが四季を感じられる活動を計画的に取り入れている。 ・地域の施設や法人内事業所と連携し、子どもたちがさまざまな世代や立場の方と関わる機会を意識して作っている。 ・行事が単なるイベントにならないよう、事前学習や振り返りの時間を設け、経験が学びにつながるよう工夫している。 ・安全面に十分配慮しながら、子どもたちが安心して地域に出られる体制を整えている。	・地域資源をさらに開拓し、新たな交流先や体験活動の幅を広げていく。 ・地域行事への参加だけでなく、事業所主催の行事に地域の方を招くなど、双方向の関わりを増やしていく。 ・行事後の振り返りをより丁寧にを行い、子どもたちの学びや成長につなげていく。 ・安全対策や事前準備をより強化し、安心して地域活動に参加できる体制を整えていく。
3	○小集団支援・園外活動の充実 ・幼稚園や保育園では経験しにくい少人数での生活環境を活かし、一人ひとりの特性や発達段階に応じたきめ細やかな支援を行っている。小集団だからこそできる丁寧な関わりを大切にしている。 ・園外活動を積極的に取り入れ、公園活動や社会体験、買い物体験などを通して実生活に結びつく経験を重ねている。体験を通して学ぶ機会を多く設け、子どもたちの自信や主体性の育ち	・小集団の特性を活かし、子どもの様子を細かく観察しながら個別の声かけや関わりを行っている。 ・活動の人数やグループ編成を工夫し、成功体験を積みやすい環境づくりを意識している。 ・園外活動では、交通ルールや公共のマナーなど社会性が育つようなねらいを明確にして取り組んでいる。 ・体験活動の前後には振り返りを行い、「できた」「楽しかった」という気持ちを言語化できるよう支援している。	・個別支援計画と活動内容の連動をさらに意識し、より目的を明確にした小集団活動を実施していく。 ・園外活動のバリエーションを増やし、生活体験・社会体験の機会をさらに広げていく。 ・成功体験を可視化できるよう記録や写真の共有方法を工夫し、保護者にも成長を実感してもらえるようにする。 ・職員間で事例検討を行い、小集団支援の質の向上を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門的な支援が十分にに行きにくい	専門資格を有する職員の配置に限られており、行動面・発達面へのより専門的なアセスメントや支援を行う体制が十分とは言えない。現場職員が経験に頼って対応している場面もある。	外部研修やスーパーバイズの活用により専門性の底上げを図るとともに、専門職との連携体制を構築する。職員の研修機会を増やし、段階的に専門的支援が提供できる体制を整える。
2	情報共有や連携、支援の統一が十分に行き届きにくい	日々の業務に追われる中で、職員同士がゆっくり話し合う時間を確保しにくく、支援の方針や関わり方の共有が十分でない場面がある。結果として、支援方法にばらつきが生じることがある。	定期的なミーティングや短時間の情報共有の場を設け、支援方針の確認と統一を図る。記録や共有ツールの活用を進め、誰でも同じ支援ができる体制づくりを目指す。
3	SNS等での発信がタイムリーに行えず、広報が十分に行き届いていない	日々の支援を大切にする中で、発信の時間を確保することが難しい状況がある。また、担当や進め方が明確でないため、継続的な更新につながりにくい面がある。	発信担当や役割分担を明確にし、無理のない更新体制を整える。簡単に投稿できる仕組みやルールを作り、事業所の取り組みを分かりやすく「見える化」していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	みらくれ
------	------

公表日 令和8年2月27日

利用児童数 令和 8年 2月 1日

回収数 17

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17				それぞれの活動部屋があり、また、多目的の大きな部屋もあるので活動時のスペースは十分ある。	子どもが安心して過ごし、集中して活動できるよう、今後も安全性と動線に配慮した空間づくりを行って参ります。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	15	1		1	・子どもの人数に対して足りなかつたりする場合もあつたり、職員の応援も来れなかつたりする。 ・今、みらくれに何人の先生がいるのか分かつていません。ウノ、ドスも分かつているんですね…？	職員配置についてご心配をおかけした場面があつたことを受け止めております。当事業所は基準に沿つた体制を整えておりますが、送迎や個別対応などにより一時的に職員が少く感じられる時間帯が生じることがあります。今後は活動の組み方や配置の工夫を行い、より安心していただける体制づくりに努めてまいります。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	16				1	車いす利用者がいた場合は少しでも段差があつては大変なので設備は十分である。	視覚支援や環境設定を活用し、お子様が自分で行動を理解しやすい環境を整えております。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17					活動状況で部屋を選んだり、空気の入替え等が必要。	日々の清掃・消毒を徹底し、安心して利用できる環境を維持して参ります。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等にに応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17					一人ひとりの発達段階や特性を大切に、無理のない支援を継続して行つて参ります。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15			2		定期的な振り返りを行い、より効果的なプログラムになるよう改善を重ねます。	
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17					保護者様と共有しながら、日々の支援内容に反映させて参ります。	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	17					支援の目的やねらいが伝わるよう、丁寧な説明を心がけて参ります。	
	9 児童発達支援計画に沿つた支援が行われていると思いますか。	17					職員間で共通理解を深め、統一した支援が行える体制を整えて参ります。	
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16	1				月ごとに違う活動内容を実施していると思う。	子どもが意欲的に参加できるよう、楽しさと成長を意識した内容を工夫して参ります。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	14				3		これまで地域の保育所やこども園との交流機会は多いとは言えない状況でしたが、本年度は地域交流イベントを開催し、他のお子さまと触れ合う機会を取り入れました。今後も地域とのつながりを大切にしながら、交流の機会を広げていけるよう取り組んでまいります。
保護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	17				通園の前に説明があつた。	支援内容や利用の流れについて、分かりやすく丁寧に説明いたします。	
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17				ありました。	個別支援計画について、定期的な振り返りを行いながら説明を行つて参ります。	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	17					保護者が安心して子育てに向き合えるよう、支援の機会づくりを検討して参ります。	
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	15	1		1		日々の様子については連絡帳や送迎時の申し送りを通してお伝えしておりますが、十分に伝わりきつていない部分があつたことを受け止めております。今後はお子さまの健康や発達の様子について、より分かりやすく具体的ににお伝えできるよう工夫してまいります。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15	2				面談や日々のやりとりの中で子育てに関するご相談や助言を行つておりますが、その機会が十分に伝わつていなかったことを受け止めております。今後は面談のご案内や相談の機会をより分かりやすくお伝えし、保護者の皆さまが安心して相談できる環境づくりに努めてまいります。	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16				1		保護者様の気持ちに寄り添いながら、信頼関係を築いていきます。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	16				1	一人っ子なので分からない	必要に応じて交流の場づくりを検討していきます
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	17						迅速かつ誠実に対応し、安心して相談できる体制を維持して参ります。
20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17						いただいたご意見を、事業所運営に活かして参ります。	

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	16			1	・発信されている。 ・インスタの投稿がもっと増えたらうれしいです。	日頃の情報発信について評価のお言葉をいただき、ありがとうございます。一方で、より頻度の高い発信を望まれる声もあり、事業所の様子や取り組みが、より身近に感じていただけるよう工夫が必要だと思っております。今後は、活動の様子や取り組みを、無理のない形で継続的に発信できるような体制を整え、保護者の皆さまに安心と親しみを感じていただけるよう努めてまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15	1		1		個人情報の取り扱いについて不安に感じられる点があったことを受け止めております。当事業所では個人情報保護の規定に基づき、書類管理や情報の取り扱いには十分配慮しておりますが、その取り組みが分かりにくかった可能性があると考えております。今後は管理方法についても分かりやすくお伝えし、安心してご利用いただけるよう努めてまいります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17					定期的に見直し、全職員が対応できる体制を整えて参ります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17				月に1度実施されている。	今後も月1回の研修・振り返りの機会を大切にしながら、支援の質や安全意識の向上につなげてまいります。また、研修内容についても必要に応じて見直しを行い、より実践に活かせる学びとなるよう努めてまいります。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17				地下入口のセキュリティが強化されてより安心できます。	日常点検や見直しを行い、事故防止に努めて参ります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17					保護者様に分かりやすく説明できる体制を整えて参ります。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	17					お子様が心身ともに安心して過ごせる環境を大切にいたします。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	15	1		1	・たまに姉弟でボイコットします。本人たちの気分です。バソは何も悪くないです。 ・活動内容を毎日チェックしている。 ・行き渋りますが、行くと楽しんでいるようです。	通所前の気持ちの揺れや行き渋りは、成長過程において自然なことであると思います。その中でも、通所後は楽しんで過ごされているとお言葉をいただき、安心しております。今後も、お子さまのその気持ちに寄り添いながら、「来てよかった」「楽しかった」と感じられる活動づくりを大切に、安心して通える場となるよう努めてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	17				・大満足です ・大満足です。いつもありがとうございます。	今後も保護者様の声を大切に、より良い支援を目指して参ります。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		みらくれ		公表日 令和8年2月27日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動内容や子どもの人数に応じて、部屋の使い方や机の配置、動線を工夫している。集団活動と個別活動を状況に応じて分け、落ち着いた過ごせる空間づくりを行っている	利用人数や活動が重なると、空間が手狭に感じられる場面もあるため、時間帯や活動内容の調整について検討している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		子どもの年齢や特性、支援の必要度を考慮し、職員配置を調整している。支援が必要な場面では職員同士で声をかけ合い、協力して対応している。	急な欠勤や利用児の増加により配置が難しくなることがあり、応援体制の整備が求められている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		視覚的な掲示や写真、イラスト等を活用し、子どもが見通しを持って行動できる環境を整えている。安全面にも配慮し、必要に応じて環境調整を行っている。	すべての子どもに最適な環境とは限らないため、定期的な見直しの必要性がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃や整理整頓を行い、安心して過ごせる環境を保っている。活動内容に合わせて空間を整え、心地よく過ごせるようにしている。	活動後に乱れやすい場面もあり、職員全体での意識共有が必要となっている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		子どもの状態や活動内容に応じて、個別対応ができるスペースを確保している。落ち着いた関わられるよう工夫している。	常に十分なスペースを確保することが難しい場面もあり、運用面での工夫が求められている。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		支援後の振り返りを通して、支援内容を見直し、改善につなげている。職員間で情報を共有している。	振り返りの時間を十分に確保できないことがあり、実施方法の見直しが必要となっている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの意見や要望を受け止め、支援内容の見直しに活かしている。	意見の反映までに時間がかかることがあり、対応の迅速化が必要とされている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員間で意見交換を行い、日々の気づきを支援改善に活かしている。	全員の意見を十分に反映できていない場面もあり、話し合いの充実が求められている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者の意見を参考にし、支援や運営の改善につなげている。	定期的な実施体制や活用方法について、検討の余地がある。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		職員の資質向上を目的に、研修への参加を促している。	業務との調整が難しい場合があり、参加しやすい環境づくりが課題となっている。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		日々の観察や記録をもとに、子どもの特性や気持ちに合わせた支援を行っている。無理のない関わり方を意識し、安心して活動に参加できるようにしている。	すべての場面で十分に対応しきれないこともあり、支援方法の見直しが必要となっている。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		保護者や関係機関と情報共有を行い、子どもの成長や変化に応じて計画を作成している。	評価や修正のタイミングが遅れることがあり、見直し時期の調整が求められている。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		達成しやすい小さな目標を設定し、成功体験を積めるよう配慮している。	目標が曖昧になる場合があり、表現の見直しが必要となっている。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		年齢や発達段階に合わせて活動内容を工夫し、興味を引き出せるようにしている。	難易度の差に対応しきれない場面があり、活動の幅を広げる工夫が必要とされている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		その日の様子を記録し、職員間で情報共有を行っている。	記入時間の確保が難しいことがあり、記録方法の簡素化が課題となっている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ミーティングや申し送りを通して、子どもの様子や支援内容を共有している。	忙しい時間帯には十分な共有ができないことがあり、伝達方法の工夫が求められている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		子ども一人ひとりの発達段階や興味関心を踏まえ、無理のない活動内容を考えている。季節感や達成感を大切にしながら、楽しく参加できるようにプログラムづくりを心がけている。	準備や振り返りの時間が十分に取れないこともあり、内容の見直しや新しい活動の検討が遅れる場合がある。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動後に子どもの様子や反応を振り返り、次の支援に活かせるよう意識している。	職員全員で共有する時間が少なく、評価が個人に留まることもある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		集団活動の中でも、一人ひとりの困り感や得意なことに対応しながら支援している。	全員に十分な対応が難しい場面もあり、より細かな調整が求められている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		声かけや環境調整を行い、安心して参加できる雰囲気づくりを大切にしている。	気分や体調によって参加が難しい場合もあり、柔軟な対応の工夫が必要とされている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		その日の支援内容や子どもの様子を職員同士で振り返り、良かった点や改善点を共有するよう心がけている。小さな気づきも大切に、次の支援につなげる意識を持っている。	忙しい時間帯には十分に振り返る時間が取れず、記録や共有が後回しになることがある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		振り返りをもとに、より良い関わり方を話し合い、支援方法の調整を行っている。	全員で共有する機会が限られており、意見が一部に留まることもある。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		個別支援計画に基づき、一定期間ごとに子どもの様子や支援の効果を振り返っている。変化や成長を丁寧に確認し、支援内容の見直しにつなげている。	記録や評価に時間がかかり、十分に活用できないこともある。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		保護者の困りごとや不安を丁寧に聞き取り、必要な情報提供や関係機関とのつなぎを行っている。子どもの状況に応じた助言を心がけ、家庭が安心して相談できる環境づくりに努めている。	相談対応の時間が十分に確保できないことがあり、継続的なフォローが難しくなる場合がある。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		地域の保健・医療機関、障害福祉、保育・教育機関と必要に応じて情報共有を行い、子どもや家庭にとって適切な支援につなげるよう連携を心がけている。	関係機関と定期的にやり取りする機会が少なく、継続的な連携体制の構築が課題となっている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		併行利用や移行を見据え、園や学校と連携しながら支援内容の共有を行っている。	情報共有の頻度にばらつきがあり、より密な連携が必要とされている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学に向けて、小学校や特別支援学校と連絡を取り、支援内容の引き継ぎを行っている。	十分な時間を確保できないことがあり、情報共有の方法に工夫が求められている。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		地域の児童発達支援センターや事業所と情報交換を行い、支援の質向上につなげている。	連携の機会が限られており、継続的な関係づくりが課題となっている。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		必要に応じて外部研修へ参加し、知識や支援技術の向上を図っている。	参加できる職員が限られており、全体への共有が十分でないことがある。
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		地域の会議や協議会に参加し、情報収集や連携を行っている。	継続的な参加が難しい場合があり、体制づくりが必要とされている。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じて助言やスーパーバイズを受け、支援の質向上に努めている。	活用の頻度にばらつきがあり、連携強化が求められている。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		園や地域活動を通して、他児と関わる機会を大切にしている。	機会が限られており、計画的な実施が課題となっている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の様子を伝え合い、成長や課題を共有している。	忙しさから十分なやり取りができないことがある。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者の困りごとに関わり、必要に応じて助言や情報提供を行っている。家庭での関わり方についても、具体例を交えて伝えるよう心がけている。	研修会や学習の機会を十分に確保することが難しく、保護者同士が学び合える場づくりに課題がある。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に運営方針や利用にかかる費用について、資料を用いて丁寧に説明している。質問があった際にも、できるだけ分かりやすく答えるようにしている。	説明の時間が限られ、内容の理解に差が生じることがある。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		子どもや保護者の思いを大切にしながら、面談を通して希望や目標を確認している。日々の様子も反映できるようにしている。	十分な聞き取り時間を確保できないことがあり、意向を深くくみ取ることが難しい場合がある。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		作成した支援計画について、内容やねらいを丁寧に説明し、理解と同意を得たうえで支援を進めている。	説明の場が短時間になることがあり、十分に確認できない場合がある。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		日々のやり取りの中で相談を受け、必要に応じて助言や情報提供を行っている。	ゆっくり話を聞く時間を確保することが難しい場合がある。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		行事や懇談の場を通して、保護者同士が関わる機会を大切にしている。	定期的な開催が難しく、参加しやすい形を検討する必要がある。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や意見があった際は、職員間で共有しながら誠実に対応するよう心がけている。	情報共有が遅れることがあり、体制の見直しが必要となっている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		通信やSNSを通して、活動の様子を伝えるようにしている。	タイムリーな発信が難しく、十分な広報につながっていないことがある。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いに注意し、施錠管理や書類の整理を徹底している。	職員間で意識の差が見られることがある。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもや保護者が安心して話せるよう、わかりやすい言葉や伝え方を意識している。	対応方法にばらつきがあり、統一した対応が求められている。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域とのつながりを意識し、行事や情報発信を通して関係づくりを行っている。	交流の機会が限られている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		業務や緊急時対応のマニュアルを整備し、職員間で確認している。	定期的な見直しが十分に行えていない。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		災害時の対応を想定したマニュアルを整備し、避難経路や役割分担について職員間で確認を行っている。また、実際の場面を想定した訓練を通して、緊急時にも落ち着いて行動できるよう意識づけを行っている。	訓練の回数が限られており、すべての職員が十分に参加できていない現状があるため、継続的な実施方法や参加しやすい体制づくりを検討する必要がある。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		来所時に体調の確認を行い、保護者からの連絡内容や子どもの様子を職員間で共有するようにしている。小さな変化にも気づけるよう、日々の観察を大切にしている。	情報の更新や共有が遅れることがあり、全職員が同じ認識を持てる仕組みづくりが必要となっている。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者からの聞き取りや書類をもとに、アレルギーや医療的配慮が必要な内容を把握し、個別に対応できるよう配慮している。必要な情報は職員間で共有し、注意喚起を行っている。	情報の伝達方法にばらつきがあり、より分かりやすく統一した共有方法を検討する必要がある。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		日々の活動前後に危険箇所の確認を行い、事故を未然に防ぐ意識を職員間で高めている。声かけや振り返りを通して、安全への意識づけを行っている。	職員ごとに意識の差が見られるため、共通認識を持てるような研修や話し合いの場が求められている。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全に関する取り組みや対応方法について、保護者へ説明し理解を得られるようにしている。必要に応じて個別に伝え、連携を大切にしている。	十分に伝えきれない場合もあり、より分かりやすく継続的な情報提供の工夫が必要とされている。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		日々の中で起きたヒヤリとした出来事を記録し、職員間で共有することで再発防止につなげている。振り返りの機会を設け、改善点を話し合っている。	報告のタイミングや内容にばらつきがあり、共有の仕組みをさらに整える必要がある。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修や日々の声かけを通して、虐待防止への意識を高めるようにしている。子どもの権利を大切にしたい関わりを心がけている。	学びの機会が限られているため、継続的に意識を高められる体制づくりが必要とされている。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束が必要となる場合の考え方や対応について、事前に説明し、同意を得たうえで慎重に対応している。記録や振り返りも行っている。	内容の受け止め方に差が生じることがあるため、より丁寧で分かりやすい説明の工夫が求められている。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらくれ（保育所等訪問支援事業）		
みらくれ（保育所等訪問支援事業）	なし	～	なし
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0名	(回答者数) 0名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 10日		～ 令和8年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	0名	(回答者数) 0名
○訪問先施設評価実施期間	なし	～	なし
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・本人のニーズに応じた支援 （アタッチメント、5領域の視点を踏まえたアセスメント、集団生活の環境の中での本人実態に応じた支援、環境作りの配慮等）	本人ニーズ ・訪問先と連携しながら本人が安心できる環境作りへの配慮 ・支援方法の情報共有（視覚的、行動分析等）	本人のニーズに応じた支援 （アタッチメント、集団生活の環境の中での本人実態に応じた支援、環境作りの配慮等）
2	・ご家族のニーズに応じた相談援助 （本人の実態への理解に対するアプローチ、集団生活への理解、相談できる窓口の明確化等）	家族ニーズ ・集団生活における本人の実態、目標等の共通理解 ・集団生活に対する不安の軽減	・相談援助における支援者のスキルアップ ・報告連絡相談における支援者のコミュニケーションスキルアップ
3	・訪問先のニーズに応じた相談援助、助言 （本人が安心して過ごせる環境作り、訪問先のスタッフへの助言アドバイス）	・相談しやすい信頼関係の構築、環境作り	・相談援助、助言等における支援者のスキルアップ

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・限定的な訪問支援員	・訪問支援員の人材育成	・事例検討会やケース検討会等を通して訪問支援員のスキルアップ ・事業所内研修・法人研修・外部研修、接遇研修でのコミュニケーションスキルの向上
2	・訪問支援事業の周知不足	・訪問支援事業の意義についての広報不足	・事業所ご家族への案内の作成 ・幼稚園・保育園・学校への訪問支援の周知
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		みらくれ（保育所等訪問支援事業）				公表日	令和8年 2月 27日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点	
環 体 制 ・ 整 運 備 営 ・	1	訪問支援に使用する教具教材は適切であるか。	○				
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	○				
業 務 改 善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○				
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	5	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			支援内容や運営体制について客観的な意見を受けている。評価結果は職員間で共有し、課題の整理と改善策の検討を行い、支援の質の向上につなげている。	
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			実施しております。	
適 切 な 支 援 の 提 供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。	
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。	
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。	
	11	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。	
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。	
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。	
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。	
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。	
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。	
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。	

関係機関や保護者との連携	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○			現在も適宜参加しております。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○			法人内の職員が参加しております。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			研修の案内は適宜行ってまいります。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。
36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			体制は整備しております	
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。
非常時等の	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			策定済みです。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			策定し適宜訓練を行っております。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			実施しております。

対 応	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			実施しております。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			利用希望がある場合は実施してまいります。